

食と緑の基本計画2015とは

県民のみなさんの安全で安心できる豊かな暮らしを実現し、都市と農山漁村が調和した愛知の持続的な発展をめざす、「食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例」の基本理念を達成するために、県として、あるいは県が県民と協働・連携して取り組む食と緑に関する施策の基本的な方針です。

平成17年2月に策定した「食と緑の基本計画」の取組成果を踏まえ、近年の社会情勢の変化に対応する新たな計画として、平成23年5月に策定、公表したものです。

計画の目標年度

2015年度(平成27年度)

条例の基本理念

- 将来にわたる安全で良質な食料等の安定的な供給の確保とその適切な消費・利用
- 将来にわたる多面的機能の適切かつ十分な発揮による安全で良好な生活環境の確保

食と緑の基本計画2015がめざす「3つの姿」

この基本計画では、「食と緑が支える豊かな暮らし」につながる次の3つの姿の実現をめざします。

1 安全で良質な農林水産物の生産と供給の確保

意欲ある農林漁業者の努力が実り、将来の夢を描くことができる農林水産業の実現をめざします。

また、このような農林水産業が営まれることにより、安全で良質な県産農林水産物が十分に供給される暮らしの実現をめざします。

2 県産農林水産物の適切な消費と利用の促進

多くの県民が農林水産業に親しみ、その大切さを実感することができる暮らしの実現をめざします。

また、多くの県民が健全な食生活を実践し、県産農林水産物を進んで消費・利用する暮らしの実現をめざします。

3 自然災害から守られ、緑と水に恵まれた生活環境の確保

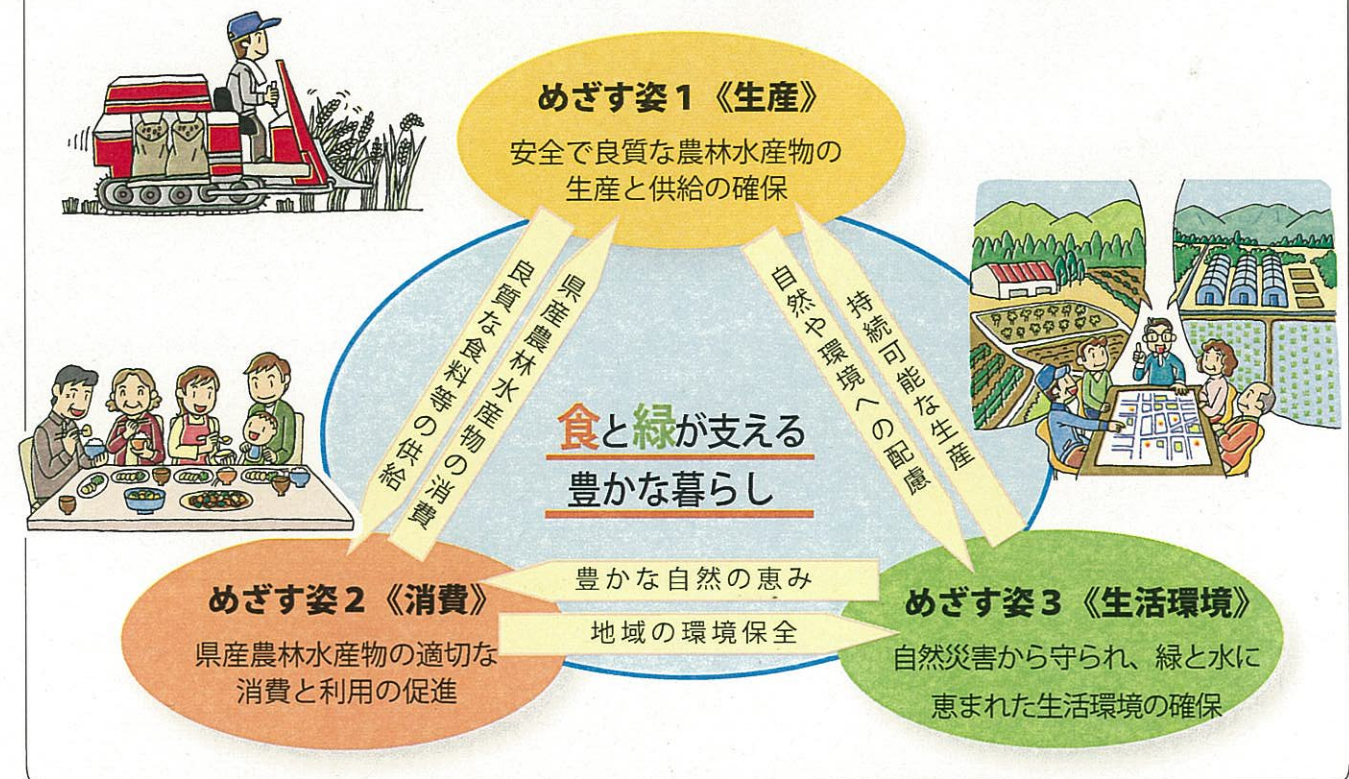
多くの県民の参加のもとで、森林、農地、海及び川の適切な保全や利用が進み、多面的機能が十分に発揮された、安全で良好な生活環境の実現をめざします。

また、鳥獣被害がなく、生活基盤の整備や都市との交流が進んだ活力ある農山漁村の実現をめざします。

食と緑が支える豊かな暮らしの実現に向けて

基本計画がめざす3つの姿は相互に深い関連があり、食と緑が支える豊かな暮らしを実現するためにはバランスよく発展させていくことが大切です。

基本計画では、これらの「3つの姿」をバランス良く発展させることにより、全体として県土に暮らす生活者の「食と緑が支える豊かな暮らし」の実現を図ります。



2015年度に実現をめざす主要な目標

基本計画では、計画がめざす姿に対応する5つの基本的な数値目標を設定し、2015年度に向けた『主要目標』として位置づけています。

目標1 農業産出額を2,976億円(2009年)から3,500億円へ増加

目標2 県産木材の生産量を9.9万m³(2009年度)から12万m³へ増加

目標3 漁業生産量を9.8万トン(2009年)から10万トンへ増加

目標4 県産農産物等を“優先して購入したい”と思う県民の割合を18%(2009年)から30%へ向上

目標5 多面的機能の発揮や理解促進のための活動へ年間40万人の県民が参加